

埼電工組

労働保険事務組合設立へ

第52回通常総代会を開催



沼尻理事長

埼玉県電気工事工業組合（沼尻芳治理事長）は22日、さいたま市北区の埼玉電気会館で、第52回通常総代会を開き、任期満了に伴う役員改選で、沼尻理事長の再任を承認した。また副理事長については現職の加藤宗一氏、藤田征夫氏、薮島一策氏を再任したほか、新たに植賀信彦氏を加え4人体制とした。2017年度の事業計画には、新規で労働保険事務組合の設立と、来年開催する第1回埼玉県電気工事技



理事、監事の選任など全議案を可決・承認した

能競技大会の準備を盛り込んだ。沼尻理事長は「理事長を引き継ぎまして5年半の月日が経ちます。この間に掲げた目標は財政の健全化と組織の活性化です。この両輪でうまく進めていこうと目標を立てたのですが、いかにせん借入金が高額なため、どうやって完済すればいい

のかという方に軸足がいつてしまい、やむを得ずと会員、支部の皆さんへサービスが多少とも少なくなり、ご不満だとかも多々あったのではないかと思っております。道半ばですが大方返済が進み、残りも無理せず4、5年に分けて返済すれば完済する見込みが立ちました。この間で完済できたのは私の任務は終わったと言えます」と、組合の財務面での現状を報告した。

議事では16年度事業報告・決算報告、17年度事業計画・収支予算決定、経費の賦課および徴収方法決定、組合加入に要する出資金・加入手数料決定、17年度借入金残高の最高限度額決定、理事および監事選任の件などについて審議し、全議案を可決・承認した。

17年度の理事長方針は「信頼と相互理解組合員と支部と本部と」一連帯を深め、組合員に必要なサービスが多少とも少なくなり、為になり、無くてはならない組織として共存し、時代の変化に即応体制で臨もう！」。

事業計画によると、新規で労働保険事務組合を設立することで、組合員へのサービス向上として福利厚生を充実させ、新たな組合のメリットとして組合機能の強化を図る。また18年6月に開催を予定する第1回埼玉県電気工事技能競技大会の成功に向けた準備を進める。

再任した沼尻理事長は「もう1期統投せよということですので、皆さまの信任に応えられるよう、埼電工組のために全力を尽くして頑張りますので、よろしくお願いたします」と引き続き、協力・支援を要請した。

通常総代会

沼尻理事長を再任

埼玉電工組

埼玉県電気工事工業組合（沼尻芳治理事長）はこのほど、埼玉電気会館

で平成29年度の通常総代会及び臨時評議員会（主催・埼玉県電気工事政治連盟）を開き、昨年度の事業報告および新年度の部長表彰を受賞。



あいさつする沼尻理事長

をすべて満場の拍手で承認した。任期満了に伴う役員改選では、沼尻芳治氏が理事長に再任された。

総代会に先立ち、埼玉県主催の「電気保安功労者等表彰式」が行われ、8氏・社が、知事表彰および埼玉県危機管理防炎部長表彰を受賞。

続いて行われた「埼玉県電工組表彰式」では、71氏・支部が全日本電気工業組合連合会会長表彰、全関東電気工事協会会長表彰などの栄誉に浴した。

全関東電気工事協会会長表彰では、受賞者6人



平成29年度通常総代会及び臨時評議員会

芳治理事長は組合の財政健全化の取り組みについて、「本部会館建設の際の借入金は、おかげさまで5億円を返済した。残り2億円は4〜5年で返済できればと思っている。何とか完済のめどが立った。皆様へのサービスの面でも迷惑をかけたかもしれないが、完済まで頑張る。ご支援とご後援をお願いしたい」と訴えた。

共同購買事業では目標の9億円を上回る12・7億円を達成。新年度の事業計画では30億円を目標とするとしている。東京電力からの委託事業である竣工調査業務、定期調査業務については、顧客満足度調査、クレーム発生件数調査ともに目標を上回る結果になった。同じく異動作業業務は、実績委託料が大きく伸び、予定委託料の105・6%に達した。「引込線以下工事」については、同工組の「基幹事業」として発展させていくとしている。

平成28年度の活動で、全関東電気工事協会から「主要事業計画」の評価で11年連続となる1

新年度の事業計画は、東京電力関連の一般用電

気工作物調査業務が4月から減少が見込まれる一方、借入金の返済は避けられないとして、沼尻理事長のあいさつ通り「財政の健全化と組織の活性化」を最優先に掲げる。そのため、長期借入金の確実な返済に努めると同時に、埼玉県や東京電力パワーグリッドからの委託事業などを適切に実施し「安定した組合運営」をめざすとしている。

また新規事業の推進として労働保険事務組合を設立、一人親方などを対象とする。法人格のない一人親方の場合には労働保険に加入できないが、事務組合があれば、そこを通過して加入できる。福利厚生を充実させることにより、組合機能の強化を図るのが狙いだ。

技能面の充実も図り、来年6月に初めて開催する予定の「埼玉県電気工事技能競技大会」の準備に取り掛かる。新年度の理事長方針は「信頼と相互理解 組合員と支部と本部」といった。

女性事務職員4人が快挙

埼玉県電工組の総代会で行われた表彰式で、本
部事務職員の女性4人が
全関東電気工事協会会長
賞および第4回小澤賞を
受賞した。ともに史上初
の快挙だ。

4人が組合活動に有益
な資格を所有して勤務し
種電気工事士や建設業経
理士1級の資格を有する。
両方の資格を
取得している
中島さんは、
全関会長賞、
小澤賞のダブル
受賞となった。
4人の女性
職員を巡って
は本紙が2月
23日付で大き
く報道。「た
くさんの反響
があった」
(同工組)。



受賞した女性職員。左から岩井さん、岡田さん、一人おいて中島さん、菊地さん

その後、「埼玉建設新聞」(3・22)、「埼玉新聞」(3・24)が相次いで取り上げた。
とくに全国紙である本紙の影響は大きく「関西方面などからも問い合わせがあった」(沼尻理事長)という。こうした経緯が「事務局員の意識が高い」との称賛を呼び、今回の受賞につながった。
ダブル受賞となった中島さんは「光栄なことだ、これからも頑張っていきたいと思っています。資格(建設業経理士1級)を取るために3年間頑張りました。これから何か乗り越えなければいけないようなことが起きたときは、その時の自分を思い出したいと思います」と話した。